

講演

金融リスク管理の現状と方向性

東京リスクマネジャー懇談会共同代表 みずほ証券 藤井 健司

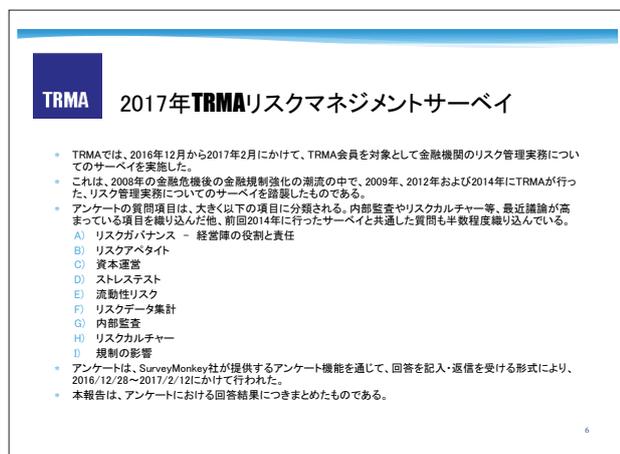
日本アクチュアリー会 CERA 研修講演 2017年 11月 18日

今日は東京リスクマネジャー懇談会 (TRMA) が、金融リスク管理の現状と方向性について行ったサーベイの結果を報告します。このサーベイですけれども、TRMA では、2009年、金融危機、リーマンショックの翌年に第1回のサーベイを実施しました。2009年という、リーマンショックに端を発した金融危機を受けて、いわゆる金融規制強化の大きな流れがスタートした年です。それで出てきた論点や規制案といったものを振り返って、われわれリスクマネジャーはどのような課題があったのかということの問題意識として、このサーベイを始めたわけです。その後2012年に第2回、2014年に第3回、と2、3年に一度サーベイを続けて、今回2017年が第4回ということになりました。一定のテーマについて、4回のサーベイを実施していますので、いわゆる定点観測としての意味も出てきているのではないかと、と思っています。

今回のサーベイでは、大きなカテゴリーとしてリスクガバナンス、リスクアペタイト、資本運営、ストレステスト、流動性リスク、リスクデータ集計、内部監査、リスクカルチャー、そして規制の影響、というカテゴリーで行いました。このうちリスクカルチャーは、今回初めて立てたカテゴリーになります。サーベイは2017年の1月から2月にかけて回答を受け付け、それをまとめたという形です。

さてこのサーベイですが、ここには大変な情報量が凝縮されています。リスクマネジャーをずっとやっている身からすると、この資料は、何時間眺めていても飽きないぐらいの情報量がちりばめられています。また、今回のサーベイでは、SASインスティテュートジャパン社さんのご支援をいただき、回答内容における、業種分析や担当業務別分析、さらには年齢別分析などを行うことが出来ました。その面でも、サーベイ結果の分析に深み加わっていると思います。

回答者は281名で、前回サーベイが274名でしたので、前回よりも増加かつ300人に近い相当数の母集団という形になります。組織として答えるのではない、個人として答えるリスク管理のサーベイとしては大きいものではないかと思っていました。定点観測的な意義もあると思います。回答者の所属組織で見ると、銀行、証券、保険の金融3業態で55%という形なので、そのような意味で言うと、TRMAの会員の母集団をほぼ代表した構成といえ



TRMA 2017年TRMAリスクマネジメントサーベイ

- TRMAでは、2016年12月から2017年2月にかけて、TRMA会員を対象として金融機関のリスク管理実務についてのサーベイを実施した。
- これは、2008年の金融危機後の金融規制強化の潮流の中で、2009年、2012年および2014年にTRMAが行った、リスク管理実務についてのサーベイを踏襲したものである。
- アンケートの質問項目は、大きく以下の項目に分類される。内部監査やリスクカルチャー等、最近議論が高まっている項目を繰り返し込んだ他、前回2014年に行ったサーベイと共通した質問も半数程度繰り返し込んでいる。
 - A) リスクガバナンス - 経営陣の役割と責任
 - B) リスクアペタイト
 - C) 資本運営
 - D) ストレステスト
 - E) 流動性リスク
 - F) リスクデータ集計
 - G) 内部監査
 - H) リスクカルチャー
 - I) 規制の影響
- アンケートは、SurveyMonkey社が提供するアンケート機能を通じて、回答を記入・返信を受ける形式により、2016/12/28~2017/2/12にかけて行われた。
- 本報告は、アンケートにおける回答結果につきまとめたものである。